



サノヤスホールディングス

証券コード:7022

第14期 2024年度
報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)



Providing trusted technology with sincere commitment

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、2024年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

2025年6月

代表取締役社長 **北達 伊佐雄**



2024年度の経営成績は、売上高は25,006百万円(前期比1,653百万円(7.1%)の増収)となり、営業利益は1,065百万円(前期比555百万円(109.0%)の増益)、経常利益は1,073百万円(前期比437百万円(68.8%)の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,182百万円(前期比723百万円(157.5%)の増益)となりました。

売上高については、建設業向けセグメントにおいて機械式駐車装置の製造及びメンテナンスが好調に推移した他、大型ビル向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造並びに空調・給排水・衛生設備の設計及び施工が好調であったこと、またレジャーセグメントにおいては大型の遊戯機械設備が完工したことから増収となりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、売上高の増収に加え、原価低減活動や原材料価格上昇分の価格転嫁が進んだことから、いずれも大幅な増益を達成しました。

セグメント別にご説明いたしますと、次のとおりです。

製造業向けセグメントでは、ショットブラストマシンの製造及びメンテナンスや各種産業機械部品の製造が好調に推移しましたが、乳化・攪拌装置の製造が前期好調であった反動によって前期比で大幅な減収となり、売上高の減少に伴い営業利益も減益となりました。

建設業向けセグメントでは、機械式駐車装置でリニューアル工事の進捗が想定を上回ったことに加えメンテナンス・修繕が堅調に推移、大型ビル向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造並びに空調・給排水・衛生設備の設計及び施工が好調であったことから、全体としても大幅な増収となりました。売上高の増加に加え、原価低減活動と原材料価格上昇分の価格転嫁により収益率が改善し、営業利益も大幅な増益となりました。

レジャーセグメントでは、大型の遊戯機械設備が完工したことから遊戯機械設備の製造及びメンテナンスは増収になったものの、営業利益については遊園地施設の運営管理において休日の天候不順等により来場者数が減少した結果、微減となりました。

2024年度は「中期経営計画〈'24-'26〉」の初年度でしたが、上記のとおり良いスタートを切ることができました。この結果を踏まえ、2024年度の期末配当金は、前年度比50%アッ

プの一株当たり7.5円とさせていただきました。また、中期経営計画にも掲げている株価を意識した経営の一環として、最大1億円の自己株式取得も併せて実施しています。

中期経営計画の2年目となる2025年度も、中期経営計画の着実な実行を通して、企業価値の向上に努めてまいります。

2025年度の連結業績予想については、増収を見込む一方で、利益面では2024年度が想定を上回る好調な実績となった反動に加え、中期経営計画に基づく将来成長に向けた事業投資の増加や、継続的な給与引き上げ等の人財投資が影響し、減益を見込んでいます。

以上を踏まえ、売上高270億円、営業利益8億円、経常利益8億円、親会社株主に帰属する当期純利益7億円を見込んでいます。トランプ関税の影響など先行きは見通し難い経済環境ではありますが、中期経営計画策定時に掲げた業績目標については、何としてでも堅持したいと思っています。

なお、2025年6月2日付で、M&Aにより株式会社小寺電子製作所をグループに迎えました。同社は1973年の創業以来、全自動電線加工機のメーカーとして、国内で高いシェアを誇る企業です(同社の概要については、後掲をご覧ください)。当社は、2026年度を最終年度とする「中期経営計画〈'24-'26〉」において、既存事業領域か否かにかかわらず、ニッチな業界のトップ企業や当社の知見や経験によるシナジーが見込まれる企業をグループ化して相互成長を図ることを成長戦略の柱の一つとして掲げており、同社を子会社化することは、中期経営計画を達成するうえで非常に大きな意義を持つと考えています。今後も中期経営計画の達成、そして、当社グループの更なる成長のため、積極的なM&Aを進めてまいります。

「確かな技術にまごころこめて ～人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する～」の経営理念のもと、株主の皆様、お客様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えられるグッドカンパニーを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TOPICS
01サノヤス・ライド株式会社が、
よみうりランド遊園地の新観覧車「Sky-Go-LAND」を竣工

サノヤス・ライド株式会社は、株式会社よみうりランドから受注した新観覧車「Sky-Go-LAND(スカイゴーランド)」を竣工し、同観覧車は遊園地「よみうりランド」(東京都稲城市矢野口4015-1)に2024年10月24日にオープンしました。

同観覧車は高さ59mであり、センサーによるゴンドラ扉の閉め忘れ防止や、ゴンドラの位置管理、バリアフリー対応のプラットホームなど、様々な機能が盛り込まれています。また、サノヤス・ライド株式会社の観覧車建造の経験と実績を活かした構造体の耐疲労設計を行い、高い構造耐力を確保しています。全42台のゴンドラには感染症対策として効果的な換気機能付きの冷暖房を完備しているほか、クッション性のある座席を備え、また、車椅子での乗車にも対応しており、全てのお客様に快適な空間を提供しています。さらに、回転輪にはフルカラーLED照明が取り付けられ、美しい光の演出でよみうりランドの夜空を彩ります。

よみうりランド遊園地は2024年3月に開園60周年を迎えられており、その節目の年に、遊園地のシンボルでもある観覧車の建設をサノヤス・ライド株式会社に担当させていただいたことは、大変光栄なことで大きな荣誉であると同時に、確かな自信へつながっています。

今後も、皆様にご満足いただける遊戯機械を提供してまいります。



Sky-Go-LAND

TOPICS
02

美之賀機械(無錫)有限公司 工場移転

みづほ工業株式会社の中国子会社である美之賀機械(無錫)有限公司は、2025年1月、江蘇省無錫市の工場を移転いたしました。

同社は、中国国内における乳化・攪拌装置の製造・販売や、純水設備・排水処理設備などの水処理事業を手掛けており、現地の日系企業を中心に多くのお客様から高い評価を得ています。



今般、会社の規模拡大に伴い、工場を移転することとしました。工場移転の効果として、生産能力が移転前の約1.4倍に向上したほか、道路インフラが整備されたエリアに移転したことにより、14mを超えるような大型トレーラーも工場に入れるようになったことで、資材や製品の輸送も効率的になりました。また、工場の安全性も大幅に改善されています。

この移転を新たな出発点として、今後もお客様により良い品質の製品と、より熱心なサービスを提供してまいります。



当社グループの人財活用について

(1) グループ全社へ65歳定年制度の導入

2025年4月の高齢者雇用安定法の改正により、65歳までの雇用機会の確保が義務化されました。当社を含めグループ内7社は既に2019年4月に「65歳定年制度」を導入していましたが、2025年4月より海外子会社を除くグループ全社について、定年年齢を65歳としました。

現在の日本は超高齢社会(65歳以上の高齢者が全人口の21%を超えた社会)となっており、2025年度中に65歳以上の高齢者が30%を超える見込みです。70歳現役社会という社会のニーズを踏まえ、企業の向かうべき方向性と「まず人財ありき」という当社の考え方を明らかにし、「65歳定年、70歳まで雇用延長」という制度としています。

当社グループの定年延長の特徴は、「①昇給カーブを抑えるこ

とはせず、65歳到達まで昇給が続く」「②65歳まで役職定年は行わない」「③退職金カーブも65歳到達まで上昇する」としています。当事者のモチベーション維持を第一に考え、ベテラン勢の実務面での能力発揮及び後継者育成に対する更なる活躍を期待し、より一層活躍できる環境を構築しています。

(2) 70歳を超えた再雇用制度の検討

現在の最長70歳までの再雇用制度を変更し、更なる雇用延長を目指します。これまで会社にご貢献してきたベテラン人財に対し、本人の体調や必要業務量に応じて労働時間・労働日数の短縮等フレキシブルな対応を行いながら、雇用延長を行います。

グループ全体で、ベテラン層の活性化と次世代の人財育成を同時に推進していきます。



中期経営計画進捗報告

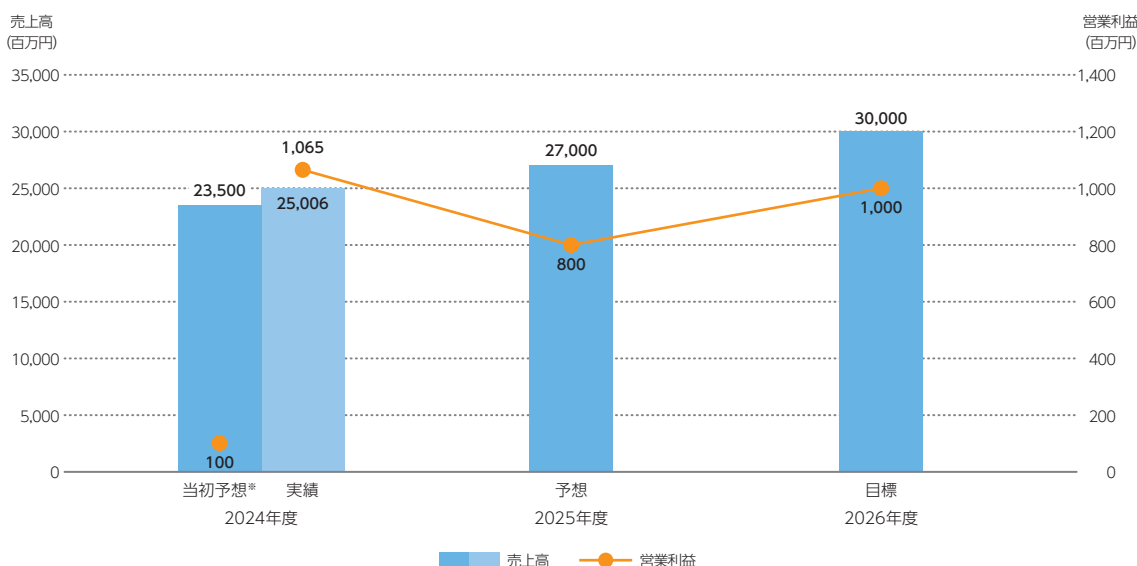
2024年度の実績と中期経営計画の目標

サノヤグループでは、2026年度を最終年度とする3か年の「中期経営計画＜'24-'26＞」を策定しています。
中期経営計画＜'24-'26＞では、**2026年度に、連結売上高300億円、営業利益10億円、営業利益率3.3%、ROE6%以上の各経営指標を達成することを目標としています。**

(百万円)

	2024年度 当初予想*	2024年度 実績	2025年度 予想	2026年度 目標
連結売上高	23,500	25,006	27,000	30,000
営業利益	100	1,065	800	1,000
営業利益率	0.4%	4.3%	2.9%	3.3%
ROE	—	11.6%	—	6%以上

※2024年5月発表時点



2024年度の具体的な取り組み

注力分野の成長ドライブ	データセンター向け制御盤の受注推進(松米電機) 水処理ソリューションの受注拡大・美之賀機械の本社工場移転(みづほ工業)
既存事業の強化	新型クイックホモミキサー「LR-P2」の開発・販売開始(みづほ工業) よみうりランド新観覧車の完工、新型遊戯機械導入(サノヤス・ライド)
新規事業分野への進出	イノベーション推進委員会の設置・推進 小寺電子製作所の子会社化
カーボンニュートラル実現に向けた取り組み推進	消費電力見える化の推進と消費削減対策の推進 太陽光発電の推進
人的資本経営の充実	グループ全社で65歳定年制度を導入 管理職向けマネジメント研修等各種研修の充実
収益力アップに向けた事業基盤の強化	自社技術セミナー実施(みづほ工業)、営業向けITツール導入による営業力強化推進 部品・設計共通化(みづほ工業)、現場改善等原価低減活動の推進

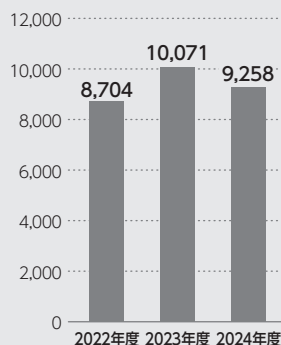


セグメント概況

製造業向け事業

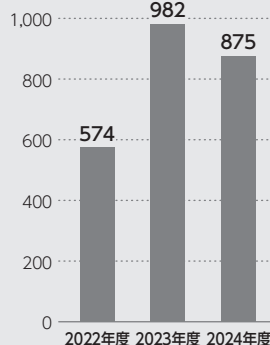
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



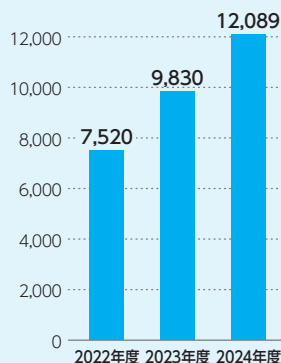
2024年度 **売上高** 92億58百万円

製造業向けセグメントにおいては、ショットブラストマシンの製造及びメンテナンスや各種産業機械部品の製造が好調に推移しましたが、乳化・攪拌装置の製造が前期好調であった反動で前期比で大幅な減収となり、売上高の減少に伴い営業利益も減益となりました。受注高は、乳化・攪拌装置の製造が回復した他、純水設備・排水処理設備及び膜分離装置の設計及び施工で大口案件を受注したことで伸び、受注残高も積み上がっています。この結果、当期の売上高は9,258百万円(前期比812百万円の減収)、営業利益は875百万円(前期比107百万円の減益)、受注高は9,550百万円(前期比2,009百万円の増加)、受注残高は5,046百万円(前期比1,318百万円の増加)となりました。

建設業向け事業

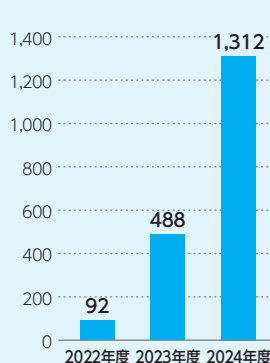
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



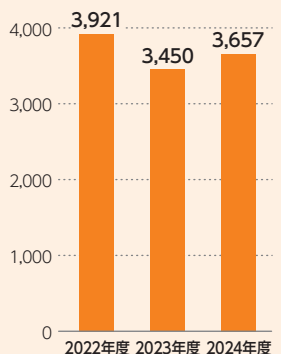
2024年度 **売上高** 120億89百万円

建設業向けセグメントにおいては、機械式駐車装置でリニューアル工事の進捗が想定を上回ったことに加えメンテナンス・修繕が堅調に推移、空調・給排水・衛生設備の設計及び施工は人員を強化した効果により増収、さらに大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造・販売も好調であったことから、全体として大幅な増収となりました。売上高の増加に伴う増益に加え、原価低減活動と原材料価格上昇分の価格転嫁により、収益率が改善し、営業利益も大幅な増益となりました。受注については、大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造や空調・給排水・衛生設備の設計及び施工が低調であった結果、受注残高も減少しました。この結果、当期の売上高は12,089百万円(前期比2,259百万円の増収)、営業利益は1,312百万円(前期比823百万円の増益)となり、受注高は9,460百万円(前期比1,066百万円の減少)、受注残高は7,291百万円(前期比1,809百万円の減少)となりました。

レジャー事業

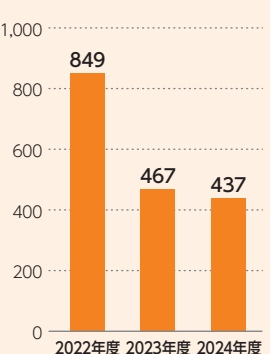
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



2024年度 **売上高** 36億57百万円

レジャーセグメントにおいては、大型の遊戯機械設備が完工したことから遊戯機械設備の製造及びメンテナンスは増収になったものの、営業利益は収益性の高い遊園地施設の運営管理において休日の天候不順等により来場者数が減少した結果、微減益となりました。受注については、前期に大口の遊戯機械設備を受注した反動で、受注高、受注残高ともに前期比で減少しました。この結果、当期の売上高は3,657百万円(前期比206百万円の増収)、営業利益は437百万円(前期比29百万円の減益)、受注高は1,210百万円(前期比1,310百万円の減少)、受注残高は356百万円(前期比841百万円の減少)となりました。

株式会社小寺電子製作所の子会社化について

当社は、2025年6月2日、株式会社小寺電子製作所の全発行済株式を取得し、同社がサノヤスグループの一員に加わりました。

同社は、1973年に創業し、全自動電線切断皮剥装置（キャストینگ）及び全自動端子圧着機（キャストグノン）等の全自動電線加工機の製造を手掛ける工作機械メーカーとして、国内で高いシェアを誇っており、特に全自動電線切断皮剥装置は国内でトップシェアを占めています。また、ものづくり企業として技術に立脚した事業を行っており、当社グループの理念とも合致します。

全自動電線加工機は、自動車や各種機械、家電製品等、幅広い分野で使われています。特に自動車分野においては、機能の多様化や電気自動車及びハイブリッド車の普及に伴うワイヤーハーネスの需要の増加につれて、全自動電線加工機の需要は増え続けている他、各種機械等の分野においても、カーボンニュートラルを意識した流れの中で電化・電動化へのシフトが予想されており、全自動電線加工機の需要は今後ますます高まっていくと見込まれています。

同社を当社グループに加えることにより、新規事業分野への進出及び事業規模の拡大による事業基盤の強化を図るとともに、同社技術開発の一層の加速と深化を図り、革新的な製品提供を通じて更なる価値創出を目指します。



小寺電子製作所 本社

会 社 名	株式会社小寺電子製作所
事 業 内 容	全自動電線切断皮剥装置（キャストینگ）・全自動端子圧着機等（キャストグノン）の製造・販売
従 業 員 数	20名（2025年5月31日現在）
本 社 ・ 工 場	岐阜県岐阜市下奈良一丁目28番2号
売 上 高	1,231百万円（2024年6月期）
創 業	1973年4月
設 立	1983年7月21日
資 本 金	10百万円



キャストینگ



キャストグノン



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	2023年度末	2024年度末
資産の部		
流動資産	12,446	12,806
固定資産	14,803	14,869
有形固定資産	8,159	8,076
無形固定資産	1,116	1,067
投資その他の資産	5,526	5,724
資産合計	27,249	27,675
負債の部		
流動負債	12,025	10,420
固定負債	6,085	7,083
負債合計	18,111	17,504
純資産の部		
株主資本	6,640	7,561
その他の包括利益累計額	2,437	2,568
新株予約権	59	41
3 純資産合計	9,137	10,171
負債及び純資産合計	27,249	27,675

連結損益計算書 (要旨)

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	2023年度	2024年度
1 売上高	23,352	25,006
売上総利益	5,321	6,232
営業利益	509	1,065
経常利益	636	1,073
税金等調整前当期純利益	775	1,064
当期純利益	459	1,182
2 親会社株主に帰属する当期純利益	459	1,182

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	2023年度	2024年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,610	1,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 804	△ 817
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 583	△ 337
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	43
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	237	389
現金及び現金同等物の期首残高	1,329	1,566
現金及び現金同等物の期末残高	1,566	1,956

ポイント

① 売上高

建設業向けセグメントの大幅な増収を主な要因として、前期比1,653百万円の増収となりました。

② 親会社株主に帰属する当期純利益

増収に加えて原価低減活動や原材料価格上昇分の価格転嫁が進んだことにより、営業利益が555百万円増加したことを主因に、723百万円の大幅増益となりました。

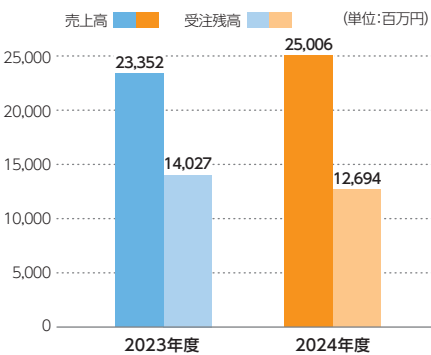
③ 純資産合計

利益剰余金の増加により、純資産は前期比1,033百万円の増加となりました。また、自己資本比率も上昇し、36.6%となっています。

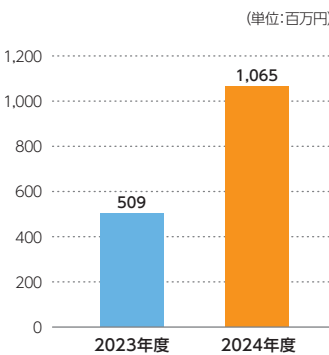


連結財務ハイライト

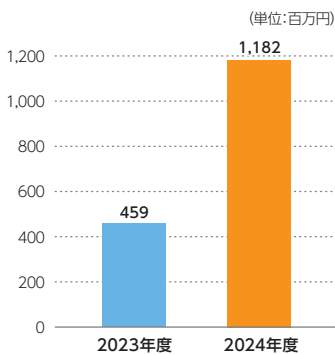
売上高・受注残高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



第14期定時株主総会決議ご通知

6月24日開催の当社第14期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第14期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第14期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当は1株につき金7円50銭と決定いたしました。

- 第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)6名選任の件
本件は、原案どおり上田孝、北達伊佐雄、花田恵二、森薫生、高橋健二、副島寿香の6氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり副島寿香氏が選任されました。
- 第4号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬額改定の件
本件は、原案どおり承認可決されました。

期末配当金のお支払について

第14期期末配当金は、同封の「配当金領収証」により、払渡期間内(2025年6月25日から2025年7月31日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。
また、振込先をご指定の方には、「配当金計算書・配当金のお振込先について」を同封いたしましたのでご確認ください。

会社情報

■グループ理念

「確かな技術にまごころこめて」

■会社概要(2025年3月31日現在)

商 設 資 本 金 額	号 立 金 額	サノヤスホールディングス株式会社 2011年10月3日 69百万円
従 業 員	従業員数	54名
	連結ベース	960名(臨時従業員202名を除く)
	平均年齢	41.3歳
本 社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号	

■株式情報(2025年3月31日現在)

株 式 の 状 況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	33,924,582株
	株 主 数	12,753名

大 株 主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本駐車場開発株式会社	3,834,400	11.51
サノヤス共栄会	2,539,800	7.62
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.28
ストラクス株式会社	1,402,000	4.21
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.37
住友不動産株式会社	1,120,000	3.36
日本証券金融株式会社	1,107,000	3.32
三井住友信託銀行株式会社	650,000	1.95
個人株主	649,700	1.95
株式会社タクマ	534,000	1.60

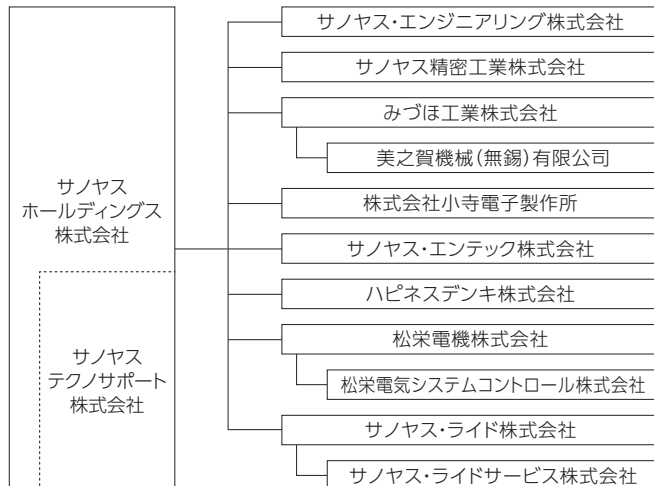
(注) 当社は、自己株式615,473株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

■役員一覧(2025年6月24日現在)

代表取締役会長 上 田 孝	上席執行役員 西 山 昌 宏
代表取締役社長 北 達 伊佐雄	上席執行役員 山 本 伊佐雄
取 締 役 花 田 恵 二	上席執行役員 田 中 啓 史
取 締 役 森 薫 生 ※	上席執行役員 菅 野 信 也
取 締 役 高 橋 健 二 ※	上席執行役員 浅 尾 洋 光
取 締 役 副 島 寿 香 ※	上席執行役員 中 西 康 之
取 締 役 (常勤監査等委員) 久 下 鉄 也	上席執行役員 大 門 淳
取 締 役 (監査等委員) 山 田 茂 善 ※	執 行 役 員 坂 根 誠
取 締 役 (監査等委員) 山 廣 隆 文 ※	執 行 役 員 岩 佐 久 徳
	執 行 役 員 田 代 昌 利
	執 行 役 員 内 山 博 之

※は社外役員を表します。

■サノヤスグループ一覧(2025年6月24日現在)



サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

